

愛知県歯科医学大会

人に寄り添う歯科医療
～みつめよう口腔機能～

日 時：令和4年 **2**月**20**日(日) 9:10～16:20
会 場：愛知県歯科医師会館よりWeb配信



主 催：(一社) 愛知県歯科医師会
共 催：(一社) 愛知県歯科技工士会
(公社) 愛知県歯科衛生士会



プログラム

9：10～9：40 開会式

開会の辞（司会）	加藤 正美 理事
歯科医師会長挨拶	内堀 典保 会長
歯科技工士会会長挨拶	鈴木 正隆 会長
歯科衛生士会会長挨拶	金森 いづみ 会長

9：50～11：20 (一社) 愛知県歯科医師会講演 1

講師：福岡県 みらいクリニック 医師 今井 一彰 先生
演題：「免疫力を劇的に上げる新型コロナ時代のセルフケア
～4つの愛（I）で元気良く～」

11：30～13：00 (一社) 愛知県歯科医師会講演 2

講師：東京都 河井歯科医院 河井 聡 先生
演題：「小児の不正咬合を引き起こす口腔習癖
～アイコンで見える化する口腔機能の問題～」

13：10～14：40 (公社) 愛知県歯科衛生士会講演

講師：株式会社デンタルタイアップ 代表取締役
小原 啓子 先生
演題：「チームで取り組む歯科医院のカイゼン
～人生を豊かにする働き方の提案～」

14：50～16：20 (一社) 愛知県歯科技工士会講演

講師：佐藤補綴研究室 佐藤 幸司 先生
演題：「無菌顎補綴の臨床的ガイドライン」

16：20 終了



ご挨拶

(一社) 愛知県歯科医師会
会長 内堀典保

令和3年度愛知県歯科医学大会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年は東京オリンピック・パラリンピックが無観客ではありましたが無事開催され、多くの感動を与えてくれました。新型コロナウイルス感染症においてはまだまだ安心はできませんが、ワクチンの急速な普及が良いニュースだと思っております。昨年は愛知県歯科医師会として新型コロナワクチン集団接種事業に多くの先生方にご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本年度歯科医学大会の開催においては感染対策を徹底して行う意図で完全Webでの開催となり、中部日本デンタルショーは中止とさせていただきました。しかし、どのような状況においても現代歯科医学の進歩・発展を図るとともに、高水準の歯科医療提供をさらに推し進める学術大会にしていきたいと考えております。今年度は『人に寄り添う歯科医療』をテーマに1日の開催となります。

午前は歯科医師会講演としてお二人のご高名な先生をお招きして開催させていただきます。講演1では、あいうべ体操を考案された福岡県開業内科医の今井一彰先生に「免疫力を劇的に上げる新型コロナ時代のセルフケア～4つの愛（I）で元気良く～」と題し、講演2では、東京都開業歯科医の河井聡先生に「小児の不正咬合を引き起こす口腔習癖～アイコンで見える化する口腔機能の問題～」と題してご講演いただきます。

午後からは歯科衛生士会講演を株式会社デンタルタイアップ代表取締役 小原啓子先生による「チームで取り組む歯科医院のカイゼン～人生を豊かにする働き方の提案～」について、歯科技工士会講演では佐藤補綴研究室 佐藤幸司先生による「無菌顎補綴の臨床的ガイドライン」についてご講演いただきます。

本大会の講演は事前申し込み制によるオンライン視聴にて実施しますのでよろしくお願い致します。

最後になりましたが、本大会の企画、準備、運営等にご尽力賜りました関係各位に心より御礼申し上げますとともに、今後ともさらなるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



ご挨拶

(一社) 愛知県歯科技工士会
会長 鈴木正隆

新型コロナウイルスの感染症が全国に蔓延し、人々が感染症対策として最も有効性が有るといわれるワクチン接種、アルコール消毒、マスク着用、人流抑制、人との距離を保つことなど、この2年間で、多くの予防知識を得て来ました。この教訓において、愛知県歯科医学大会に参加させて頂くことに(一社)愛知県歯科技工士会を代表して、関係各位に皆様方のご尽力に心より敬意を表すると共に感謝を申し上げます。

(一社)愛知県歯科技工士会では昨年同様Webを用いたりリモートでの講演会・理事会・地区での会合などを開催し、新たなWebに参集タイプのハイブリッド講演会開催に伴い、機材を変え、会議形態を変え、様々な工夫を凝らし、今の時代に何が適用するのか、何が相応しいのか、どの様に対応すれば歯科技工士会員に伝わるのか、すべてが試行錯誤で手探り状態の中、会員の皆様から様々な器材等をご提供いただきながら現在の(一社)愛知県歯科技工士会事業は成り立っています。2021年6月27日より新執行部がスタートを切り、コロナ禍が日常化している時期に以前と同じ事業では立ちゆかぬ事を感じつつの業務です。

歯科技工士の環境も年々変わり、全国の国家試験合格者がついに823名となり、若い技工士の定着率は相変わらず5年で30%、平均就労年齢は55歳と高齢化しています。また、1人技工所の多くは保険内技工を中心としており期中適用に対応が難しく、特に義歯を製作する技工所が減少しています。数年後には義歯を製作する技工所を探すことに苦労することになるでしょう。下支えをしている技工士の高齢化は止まりません。本年度(一社)愛知県歯科技工士会の事業でADTAトレーニングセンター第7期デンチャーコースとして、今後の技工に必要なと思われる義歯の指導を参集とWebにて開催いたしました。義歯の製作には多くの知識、その知識を活かし切る経験が必要になります。豊富な知識・経験を積まれた講師陣には初めてWeb講習を初めて経験していただきました。

今年度の(一社)愛知県歯科技工士会講演では、一連の義歯製作に置いて最も信頼され、全国でご講演される佐藤幸司先生をお迎えして、テーマ「無歯顎補綴の臨床的ガイドライン」を講演して頂きます。健康なお口から美味しく食事ができ、上手くしゃべり良く噛む。笑顔の改善と義歯の必要性は計り知れません。患者様に満足のいく治療の一旦を担う歯科技工士の製作する義歯をWeb配信によりご講演いただきます。佐藤幸司先生のご講演を、歯科医師・歯科衛生士の先生方にもお聞きいただければ幸いです。

歯科医学大会に(一社)愛知県歯科技工士会も参加させて頂き、歯科医療の一旦を担う歯科技工士が、知識と技術の研究・研鑽の結晶である補綴物を毎日製作していることを確信し、運営にあたりご尽力されました皆様に感謝を申し上げますとともに、この大会にて歯科医療業界が益々発展することを祈念してご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

(公社) 愛知県歯科衛生士会
会長 金森いづみ

新型コロナウイルス感染症の感染不安が続く中、令和3年度愛知県歯科医学大会が開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。昨年度に引き続き中部日本デンタルショーが中止となり、最新の歯科医療機器や歯科材料に出会える機会を失ったことは、歯科専門職にとって大きな損失となっています。しかし、愛知県歯科医学大会の開催によって、必要な知識を得る機会に恵まれたこと、ご尽力いただきました関係諸団体の皆様方には深く感謝申し上げます。

さて一昨年から続く新型コロナウイルス感染症は、ワクチンと治療薬の開発により徐々にその勢いは抑えられつつあります。ここで気を許さず、必要な感染対策を取りながら、コロナとの共生を前提とした新たなステップへと進む必要があります。昨年11月には東山動物園において、愛知県歯科衛生士会の主催事業「どうぶつブクブクフェア」を二年ぶりに開催しました。800名を超える家族連れが参加し、歯科保健の大切さを周知することができました。今後も感染状況に合わせた対策を取りながら事業を進めていきたいと考えています。

今年度愛知県歯科衛生士会はSDGsの目標の一つとして記されている“ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい雇用）”をめざして取り組みを進めています。愛知学院大学短期大学部“歯科衛生士リカレント研修センター”事業への参画、人材育成のための指導者研修など、復職支援・離職予防の事業を実施してきました。

そこで今年度の講演は様々な歯科医院の変革を進めていらっしゃる、歯科衛生士であり経営士でもあられる、株式会社デンタルタイアップ代表取締役の小原啓子氏をお招きし「チームで取り組む歯科医院のカイゼン～人生を豊かにする働き方の提案～」というテーマでご講演いただきます。多くの歯科医院と関わっていらっしゃった経験を交えて実践的な情報をお伝えいただけると伺っております。

歯科界のチームである（一社）愛知県歯科医師会、（一社）愛知県歯科技工士会の皆様方と共に、人生を豊かにする働き方について考える機会となりますことを切に願っております。

最後になりましたが、皆さまのますますのご発展とご健康をお祈りして挨拶とさせていただきます。



免疫力を劇的に上げる新型コロナ時代のセルフケア ～4つの愛(I)で元気良く～

福岡県 みらいクリニック 医師 今井 一 彰

2021年も新型コロナ感染症に振り回された年でした。コロナ後の世界は一変し、私たちの生活様式も好むと好まざるとに関わらず変更を余儀なくされました。日常生活が制限される中、健康を保つのは日頃からの一人ひとりの心がけ、セルフケアが重要だと再認識できました。

いずれ新型コロナも旧型コロナとなり、「喉元過ぎればなんとやら」にならないようこのコロナ禍で蓄積された知見をよりよい社会のために継承していきたいものです。

とはいえまだこのコロナ禍は継続するでしょう。絶えず見えないウイルスに常に怯えて暮らす人々、コロナ太り、コロナフレイルという言葉が表すように、動く量が減り、間食や加工食品と体重が増えた人々の問題解消はこれからです。海外でもロックダウン（都市封鎖）中には砂糖の消費量、血糖値の上昇が報告されています。そしていつ出現するか分からない新興感染症、未知のウイルスへの不安は残ります。

なんと風邪ウイルスだけで200種類以上いると言われます。でも、それらと戦って生き残ってきた子孫が私たち。戦いの最前線はそうです命の上流である口と鼻です。命の上流を活かして健康を保っていくためのキーワードは換気（KANKI）、手洗い（TEARAI）、鼻うがい（HANAUGAI）、そして歯みがき（HAMIGAKI）。それぞれの最後の文字をとって4つのI（愛）です。風邪は万病の元といいますが、その風邪を予防できる方法があれば不安の一つは消すことができます。

気軽に熱や咳も出せない、風邪も引けない時代だからこそ、健康を維持する4つの愛（I）を自分のためにも家族のためにも始めてみませんか。職員や院長がコロナに感染し休診することになり大変な目に遭ったという事例はもちろんですが、そもそもスタッフが病欠することは医院経営にとって大きな損失です。健康経営は、医院の健全な運営に直結します。

4つのIのうち特に鼻うがいは未経験の人も多いことでしょう。「痛そう」「怖い」という声も聞きます。本講演では、特に鼻うがいの効能効果、作用機序そして歯科医療におけるその有用性について話します。手洗いや歯みがきも当初は“新しい健康法”でした。徐々に根付いていきました。鼻うがいもいまは“新しい健康法”ですが（本当はアーユルヴェーダの時代からある古くて新しい健康法ですが）、普通の健康法として認知されていくことでしょう。

さらにマスク必須の生活では表情筋を使わず、口が開きやすくなってしまっていて口呼吸となり虫菌や歯垢が増えます。でもマスクによる体の悪い方への変化を知っている人は多くありません。定期的な歯科治療は私も受けており、いうまでもなく健康生活には必須です。

命の入り口の番人としての歯科医院からのさらなる健康啓発の取り組みにとっても期待しています。

略 歴

鹿児島県出身

平成7年 山口大学医学部卒業 同大学救急医学講座入局

福岡徳洲会病院麻酔科 飯塚病院漢方診療科医長 山口大学総合診療部助手などを経て平成18年みらいクリニックを開業
息育指導士を養成する講座を主催している

日本東洋医学会認定漢方専門医

認定NPO法人日本病巣疾患研究会副理事長

日本加圧医療学理事



小児の不正咬合を引き起こす口腔習癖 ～アイコンで見える化する口腔機能の問題～

東京都 河井歯科医院 河井 聡

子供達の歯列を乱す原因は大きく分けて二つあります。一つは、歯の萌出位置、顎骨とのバランス、歯のスペースの問題などの解剖学的な問題です。この場合、難症例もありますがほとんどは従来の矯正装置を駆使すれば比較的容易に解決できます。もう一つは、バランス良く口腔周囲が機能しているか、という口腔機能の問題です。口腔機能を乱す口腔習癖があると、その習癖により歯列は乱れます。歯列矯正で乱れた歯列を改善しても、口腔習癖があるとまた元の傾向のように歯列は乱れてしまいます。問題の原因である口腔習癖を改善することが必要となります。口腔習癖は様々な種類があり、それぞれ対応も違います。今回、特に開咬、過蓋咬合、正中のずれを引き起こす口腔習癖を取り上げ、それぞれについて解説し、その対応について考えていきます。

医歯薬出版から2019年に「口腔習癖～見逃してはいけない小児期のサイン」を、2021年に「口腔習癖実践編～アイコンで見える化する口腔機能の問題点」を発売させて頂きました。これらの書籍で、口腔内にある問題をアイコン化して分類し、見える化する方法を提案したところ好評を得ました。その中で、多くの患者の主訴であり成果としても求められる歯列など「形態の問題」とその歯列形態の問題の原因となる「機能の問題」、「その他の問題」をピックアップして列記し、それぞれの問題に対する検査方法、矯正や処置方法、機能訓練を、一つひとつ対応できるようにまとめてみました。口腔内の問題点をアイコン化し見える化することで、複雑に絡み合っていてわかりにくい口腔習癖をわかりやすく分解し単純化すること、問題点を明確に認識しやすくすること、担当歯科医師、担当歯科衛生士、患者間で、問題点を共有化すること、一つずつできることから解決することにより口腔習癖に向かいやすくすること、途中経過でも解決できていない問題がわかるので、その時点でどのような問題が残っているかが把握できるようになることなど、様々な利点があり、最近では活用を積極的におすすめています。口腔習癖の機能訓練は簡単には成果が出ないこともあるので、初心者にはとかく取り組みにくく、敷居が高いものと思います。今回講演の中で、アイコンを使用して、診断をわかりやすく、対応を単純明快にして、取り組みやすくする工夫を解説致します。

口腔習癖を治すためには、長い経過の中で歯列の変化、異常の兆候を見逃さずに把握し、幼児期の頃から機能訓練を重ねながら子供達とどう向き合うかが重要です。実際に多くの症例の長期経過をみて頂きながら、改善の過程や機能訓練の有効性などを実感頂ければと思います。健全な歯列は健全な機能に宿ります。小児期に機能訓練を通して、健全な口腔機能を獲得できるように手助けをすることが、齲蝕予防だけにとどまらない最高の予防処置となります。是非、口腔習癖の世界に飛び込んでみてください。

略 歴

1997年 東京医科歯科大学歯学部卒業
1997年 川崎市須貝歯科医院勤務
2000年 西東京市山口歯科医院継承
2015年 武蔵野市河井歯科医院開設
包括歯科医療研究会、臨床歯科を語る会所属



チームで取り組む歯科医院のカイゼン ～人生を豊かにする働き方の提案～

株式会社デンタルタイアップ

代表取締役 小原 啓子

令和2年の春、新型コロナウイルスが世界中を襲いました。危機的状況は何度も繰り返されましたが、私たち人類は様々な対応策を生み出し、現在その状況を乗り切りつつあります。

歯科業界においても長年行ってきた標準的予防策の徹底と、新しい防御の在り方が問われましたが、私たちは、歯科医療を通して健全な全身状態で安定した生活が行えるように、地域社会を支援し続けています。特に歯科医院で行われている歯周治療や予防は、全身疾患との関わりが深く、疾病の予防や健康寿命の延伸につながる大いに期待され、その存在価値を高めました。したがって、その歯科医療を担う人材の確保や育成は極めて重要であり、そのための職場環境の改善は必須となっています。

働き方改革は、2019年4月より関連法が順次施行されました。勤務環境の改善がなければ、健全で継続的な医院経営は成り立ちません。2007年、2014年に行われた第5次・6次医療法改正は、働く場の改善を組み込んだ、医療の質を上げるための法律改正でした。これらの法改正に合わせて、厚生労働省研究班より「医療分野の『雇用の質』向上のための勤務環境改善マネジメントシステム導入の手引き」が策定されましたが、その内容は経営学を基盤とした組織の仕組みづくりそのものでした。まさしく厚生労働省が示す手引書には、「雇用の質を上げると医療の質が上がり、その結果、患者さんの満足度は向上し、歯科医院の経営は安定する」と、指摘しています。日本歯科衛生士会においても、この考えを加味した新人育成のためのガイドラインを示し、効果的な人材育成方法を提示しています。

女性が多い職場である歯科医院は、個々のライフイベントによる影響を大きく受けます。スタッフの一人一人が安心して働ける職場環境の整備は喫緊の課題です。勤務時間、組織体制、環境改善、組織の見える化、人材育成システム、数字の見える化、独自性の確立等を通して、組織の強化は図れます。

この度は、仕事や家庭の両立を乗り越えながら持続性の高い職場をつくるための実践的な提案をいたします。新しい未来への礎の一助になれば幸いです。

略 歴

- 1980年 広島歯科衛生士専門学校
(現：広島高等歯科衛生士専門学校) 卒
- 1980年～2006年 広島県歯科医師会勤務/広島口腔保健センター、
広島高等歯科衛生士専門学校担当
- 2004年 産業能率大学経営情報学科卒
- 2006年 広島大学大学院社会科学部研究科マネジメント専攻
(経営戦略研究室) 修了
- 2007年 デンタルタイアップ設立代表
- 2011年 株式会社デンタルタイアップに法人化代表取締役
- 2016年 広島県「仕事と家庭の両立支援」への企業登録
- 2017年 公益社団法人日本歯科衛生士会「歯科衛生士の人材確保・
復職支援等に関する検討会」構成員
- 2017年～2018年 公益社団法人日本歯科衛生士会「歯科衛生士に対
する復職支援・離職防止等推進事業」歯科衛生士に関する
共通ガイドライン作成委員会構成員
- 2018年 広島県「働き方改革実践企業」に認定
- 2018年～2021年 客員教授神奈川歯科大学短期大学部
- 2018年 一般社団法人日本経営士会主催「第9回ビジネス・イノ
ベーション・アワード2018」『歯科医療業界働き方改革賞』
受賞

マネジメント(修士)/経営士/経営士能力開発研究プログラムリーダー
歯科衛生士(日本歯周病学会認定歯科衛生士)

主な著書

- 「これでチョ～カンペキ歯科衛生士の新・歯周治療の本」 1996年
- 「花の歯科衛生士」 2000年
- 「輝く華の歯科衛生士
～これからの歯科医院経営をチームで考える～」 2006年
- 「歯科医院の活性化ー現場で起こる変革のドラマー」 2009年
- 「『マニュアル作りで仕事を視える化』仕事の視える化part 1」 2010年
- 「『5sで仕事の視える化』仕事の視える化part 2」 2010年
- 「『人財として人を育てる』仕事の視える化Part 3」 2011年
- 「『ホンマモンの歯科医療スタッフ』仕事の視える化Part 4」 2011年
- 「歯科学と経営学の融合『歯科医院経営の心得』」 2012年
- 「はいしゃさんの仕事段取り術」 2014年
- 「はいしゃさんの仕事カイゼン術」 2016年
- 「はいしゃさんの働き方改革」 2018年
- 「歯科医院の経営をチームで考える！
歯科医院をまとめるリーダーのための教科書」 2020年
(上記医歯薬出版)
- 「100円グッズから始める歯科医院の整理・収納アイデア集」 2021年
(日本歯科新聞社)



無歯顎補綴の臨床的ガイドライン

佐藤補綴研究室 佐藤 幸司

無歯顎補綴の製作で大切なことは、客観的なガイドラインとなる臨床深堀が重要と考えております。デジタル時代の歯科補綴学のなかで、無歯顎者の総義歯製作は生体に調和した客観的な術式と科学的な根拠に基づいた総義歯の設計概念が必要となります。

無歯顎治療の補綴は歯科学における学際的 (Interdisciplinary) な人工臓器治療が求められ、総義歯製作において、日本老年歯科医学会が提唱している口腔機能低下症 (保険病名) 患者の口腔緩和医療を考慮した解剖学を学ぶことが重要であると考えます。

全ての補綴装置には形態と機能を備えており、両者は密接不離の関係であります。口腔の形態を学ぶ学問が形態学、すなわち解剖学であり、機能を追求する学問が機能学すなわち生理学である。

アナログデンチャー・デジタルデンチャーの製作技工に際しても押さえておかなければならない各ステップを整理し、より客観的なガイドラインを応用することが重要であります。

日常臨床の義歯製作において肉眼的解剖学を観察することにより、臨床学的視点から解剖学的考察により生理学および力学的に解り易く考察した人工歯排列を行うことが望ましいと思われまます。総義歯の製作は自然科学を採求する学問であり、生体に調和した口腔機能の回復が目的であります。そのために、総義歯を構成する各臓器を考察し、義歯の機能を構成する印象体には、(Adhesion粘着: Cohesion吸着) が求められる。義歯の咬合には、人工歯排列ゾーン・異なる症例に対する咬合様式の付与が重要になる。義歯の生理学的軸面となる研磨面は、(デンチャースペース・ニュートラルゾーン) を応用した客観的な歯肉形成の軸面形態を付与することが大切になります。

また、患者固有の生理学的な咬合調整を行う事で口腔内装着時、違和感の少ない義歯を装着することが出来ると考えます。そのうえで、長期予後に対する考察も重要な項目であります。

愛知県歯科医学大会歯科技工士会講演では、臨床症例に応じた義歯製作を考察し、総義歯臨床で押さえておきたい項目と歯冠修復技工にも応用できるガイドラインについて考察する予定です。

時間が許せばデジタルデンチャーについて考察出来れば幸いです。

略 歴

- 1950年 大分県出身
- 1975年 大分県歯科技術専門学校卒業
納富哲夫先生に師事：霞が関歯科ポストグラジュエートセンター勤務
戸井歯科診療所：安部歯科医院：勤務
- 1985年 佐藤補綴研究室 (名古屋市開業)
- 1980年 東海歯科医療専門学校非常勤講師
- 1990年 名古屋市立大学医学部研究員：第一解剖学教室入局
(2006年まで在籍)
- 2002年 Ivoclar Vivadent BPS公認 国際インストラクター
- 2009年 名古屋歯科医療専門学校非常勤講師
- 2017年 神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔総合医療学講座特任講師

所属学会

- (特非) 日本顎咬合学会・歯科技工士会部員
- (学会認定・指導歯科技工士)
- (一社) 日本歯科技工学会
- (学会認定・有床義歯専門歯科技工士)

著 書

- 『効率的な総義歯製作の技法』
(共著：1998年 第一出版株式会社)
- 『初心者のための総義歯製作法』
(共著：1999年 クインテッセンス出版株式会社)
- 『下顎吸着義歯とBPSパーフェクトマニュアル』
(著：2011年 クインテッセンス出版株式会社)
- 『技工に強くなる本』
(共著：2012年 クインテッセンス出版株式会社)
- 『超高齢社会を見据えた；パーシャルデンチャーの製作』
(編著：2016年 医歯薬出版株式会社)
- スキルアップをめざす『エビデンスに基づく総義歯製作』
(著：2018年 医歯薬出版株式会社)
- 『生体情報から考える補綴装置の咬合コンセプト』
(編著：2019年 医歯薬出版株式会社)

研究会

HATSUKUL メンバー